

解答

一
問1 a エ・ク b ア・ウ c イ・カ
問2 オ
問3 ア・エ

問4 人間の身体には非常に多くの生物が棲みついているので、人間は一人で生まれ、一人で死ぬという考えは誤りであるということ。

問5 ウ
問6 ウ
問7 ア
問8 ア ○ イ × ウ × エ ○ オ ○

二
問1 A エ B ア
問2 エ
問3 イ → カ → ウ → ア → エ
問4 経験のことなど考えてはおらず、生きがいである本を心ゆくまで読んでいたいがために開いている店。
問5 ウ
問6 オ
問7 イ

三
① 快方
② 沿岸
③ 遊覧
④ 牧歌
⑤ 無二
⑥ 潮時
⑦ 創始
⑧ 祝賀

解説

一

出典は、養老孟司「いちばん大事なこと」。

問4 まず、傍線部の「それ」という指示語の中身を確定させましょう。傍線部の直前に、「人間は一人で生まれて、一

人で死ぬ。ときどきそう威張る人があるが」とあるので、太字の部分が指示内容とわかります。この指示内容が「生物学的に」「間違い」であるとはどういうことか。問3 エがヒントになります。「人間の身体には細菌など一億以上の生物が棲みついており」（死んで火葬にでもすれば、それらも共に死ぬことになります）人間の身体は生物学的に一個の生き物とは言えないのです。

傍線部の次の段落、「そればかりではない」以下は、傍線2「身体が自然だという説明」の一部ですので、ここでは解答に含めません（問3 ア）。

二

出典は、角田光代「ミツザワ書店」。

問4 「本文全体を読んで」とあるのに注意しましょう。適切な箇所を探して組み合わせるだけでは、正解できません。おばあさんについての情報は、お孫さんのセリフを通じて語られますので、彼女の言葉に注目しましょう。まず傍線部の周囲「もともと儲かるような店じゃなかつたし、祖母の道楽みたいなものでしたわね」。次に「祖母は本当に本を読むのが」以下と「私。子どものころおばあちゃんに訊いたことがあるの。」以下。（これらのセリフから、店主のおばあさんは①お金儲けのために店を開いていたのではなく、②彼女にとって「世界への扉」（問6）である本を片っ端から読むことを生きがいにしていた、ことが読み取れます。